

令和6年度大学・高専機能強化支援事業
(支援1：学部再編等による特定成長分野への転換等に係る支援)
事業概要

令和6年2月申請時点

1. 基本情報

大学名	金沢工業大学	設置区分	私立
学校種	大学	都道府県	石川
大学全体の総収容定員	5,920名	※令和5年5月1日時点	
学部学科組織構成	工学部（機械工学科、ロボティクス学科、航空システム工学科、電気電子工学科、情報工学科、環境土木工学科）、バイオ・化学部（応用化学科、応用バイオ学科）、建築学部（建築学科）、情報フロンティア学部（メディア情報学科、心理科学科、経営情報学科）		
事業計画名	金沢工業大学における社会実装型教育研究プロジェクトを文理探求から実践する情報専門人材の育成		

2. 事業概要

本学は、令和7年度から現在の工学部情報工学科、工学部ロボティクス学科、情報フロンティア学部をスクラップし、情報理工学部、メディア情報学部、情報デザイン学部をビルドする計画である。このスクラップ&ビルドは、大学収容定員を変更せずに、新たな情報系3学部の設置により、情報専門人材の量と質を高めるものである。具体的には、情報系学生がステークホルダー（初等中等教育機関の教諭や生徒、企業・社会人・地域住民など）との多様なコミュニティ形成を通して、社会課題（真のニーズの追求、あるべき姿の創造）の理解を深めて、その解決策を実装することで、新たな価値創出ができる人材を育成することにある。このビジョンを推進するために、次の3点に注力する。①各学部教育（専門分野）に情報技術（AI・IoT・データサイエンスなど）を導入したPBLを実践する。②多様な視点（文理を探究する多様なコミュニケーション）から真のニーズと社会課題を捉え、新たな価値の創出を行う。③地方創生・国際化を視野に強靱な産学官連携基盤を構築し、社会実装型教育研究を実践する。これら活動を支援するために、情報系3学部が共通して活用する「教育研究棟：KITメディアラボ（仮称）」を建設する。「KITメディアラボ（仮称）」では、共創教育・学際研究を主軸とする「先進的な情報技術を活用したモノ・コト・人づくり」の教育研究活動を実践し、学生・教員とステークホルダーが「文理の枠を超え、相互に補完し合いながら、新たな価値を追求する場」とする。

3.本事業で新たに設置等を行う組織

改組予定年度	令和7年度				
認可申請・届出の別	届出				
改組内容	学部の新設（当該大学が授与する学位の分野の変更を伴わないもの）				
設置等組織名	情報デザイン学部				
設置等組織の学位分野	工学関係	-	-	-	-
当該学部等の所在地	石川県野々市市				
入学定員	100名				
収容定員	400名				
入学定員の増加数	100名				
他学部等の入学定員の減少数	100名				

改組予定年度	令和7年度				
認可申請・届出の別	届出				
改組内容	学部の新設（当該大学が授与する学位の分野の変更を伴わないもの）				
設置等組織名	メディア情報学部				
設置等組織の学位分野	工学関係	-	-	-	-
当該学部等の所在地	石川県野々市市				
入学定員	200名				
収容定員	800名				
入学定員の増加数	200名				
他学部等の入学定員の減少数	200名				

改組予定年度	令和7年度				
認可申請・届出の別	届出				
改組内容	学部の新設（当該大学が授与する学位の分野の変更を伴わないもの）				
設置等組織名	情報理工学部				
設置等組織の学位分野	工学関係	-	-	-	-
当該学部等の所在地	石川県野々市市				
入学定員	320名				
収容定員	1,280名				
入学定員の増加数	320名				
他学部等の入学定員の減少数	320名				

事業計画名 金沢工業大学における社会実装型教育研究プロジェクトを文理探求から実践する情報専門人材の育成					
基本情報					
改組予定年度	令和7年度	設置等組織名	情報デザイン学部(経営情報学科、環境デザイン創成学科)、メディア情報学部(メディア情報学科、心理情報デザイン学科)、情報理工学部(情報工学科、知能情報システム学科、ロボティクス学科)	入学定員増数(合計数)	620名
所在地	石川県野々市市	改組内容	学部の新設(当該大学が授与する学位の分野の変更を伴わないもの)	入学定員減数(合計数)	620名

<社会や地域のニーズ・課題>

『第6期 科学技術・イノベーション基本計画』(令和3年3月26日:閣議決定)
 予測不可能な時代においては、**文系や理系という区画を超え、複眼的に物事を捉え、課題解決をしていくスキル**が重要。
 『我が国の未来をけん引する大学等と社会の在り方について』(令和4年5月10日:教育未来創造会議)
 今後特に重要視する人材育成の視点⇒**デジタル、人工知能(AI)、グリーン(脱炭素化など)の科学技術分野や、SDGsをけん引する高度専門人材**の育成。

★当該学部において養成する人材の需要調査結果
 (本学ステークホルダーの企業671社1,019名を対象としたアンケート調査を実施し、906名から回答受領)

【具体的な人材ニーズ】

- ①理工系と文系の区別なく、チームで社会課題解決できる人材が必要となる。
- ②社会の変化に対応できるように、**教育もアジャイル型で運営する必要がある。**
- ③AIやデータサイエンスを使いこなせる**即戦力人材**が必要となる。

【入学定員に対する採用倍率】

- ✓ 情報デザイン学部: 22.6倍
- ✓ メディア情報学部: 9.0倍
- ✓ 情報理工学部: 17.7倍

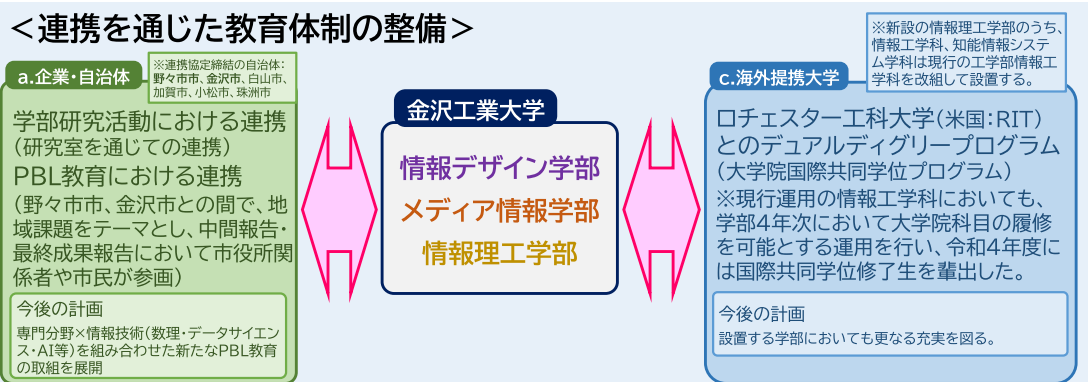
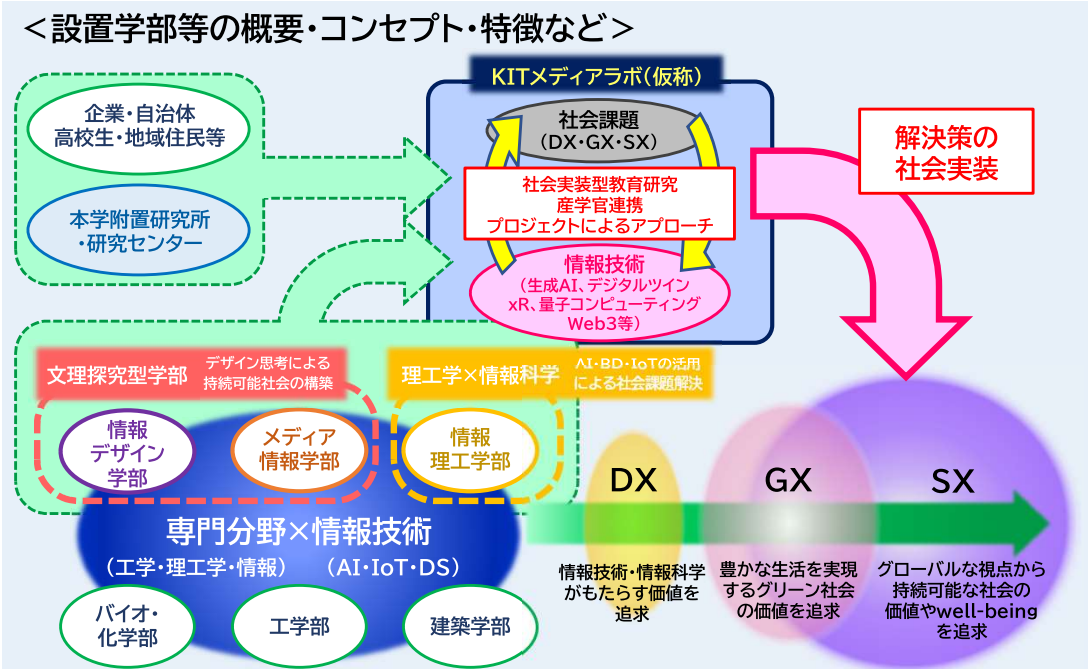
<教育内容・育成する人材像>

本学のCoreValue(世代・分野・文化を超えた共創教育の構成要素)

情報技術教育(数理・データサイエンス・AI教育プログラム:応用基礎レベル認定)
 考える力の育成(PBL教育、STEAM教育、科学技術者倫理、SDGs教育等[第1回ジャパンSDGsアワード受賞])
 国際通用性の確保(CDIOイニシアチブ[PD教育]、WACE(世界産学連携教育協会)[KITオープン教育]等)
 社会実装型教育研究(企業や附置研究所・研究センターと連携したプロジェクト活動等)

各学部における養成人材像

情報デザイン学部 データサイエンス×デザイン×マネジメントで多様な社会課題に応える人材を育成
メディア情報学部 メディア情報技術×心理情報技術とデザイン・芸術の融合で、社会に新しい価値を創出できる人材を育成
情報理工学部 情報科学・AI・ロボティクスを融合し、幅広い分野でDXを推進できる人材の育成



- ### <多様な入学者の確保>
- a. 入試科目の見直し**
文系・理系の併用型入試を実施するため、推薦試験(公募制)において数学、英語、国語の3科目から2科目選択の基礎学力試験を実施。
 - b. 女子学生の確保**
女子奨学金給付型の総合選抜入試を実施
⇒入学後は女子学生のキャリア形成支援プログラムを実施する。
 - c. 地域の初等中等教育**
✓積極的な探究学習の支援や出前授業の実施(PBL教育、教科:情報の支援を含む)
✓連携協定校に対する、PBL教育とSDGs教育の実施とノウハウ提供
 - d. 社会人学生の受入強化**
✓社会人共学者制度の運用
➢リカレント/リスキリングの実施を図るとともに、履修学生の学びの充実と意欲を醸成
✓情報技術(AI、データサイエンス等)について学生と社会人が共に学ぶプログラムを開講
➢R3~5年度科目履修者:社会人89名(延べ数)
 - e. 留学生の受入強化**
✓VJIT(ベトナム)との連携協定
➢本学のPBLカリキュラム提供により、本学への編入学と大学院進学を図る
✓LNBTI(スリランカ)との単位互換・連携協定
➢令和6年度より3年次生3名が編入学
✓日本語教育プログラム(KIT-SPJ)による支援

支援1:社会実装型教育研究プロジェクトを文理探求から実践する情報専門人材の育成

必要とされる人材像と高等教育の目指すべき姿

- 予測不可能な時代を生きる人材像
 - ✓ 一般的な知識・理解と汎用的技能を文理横断的に身に付けていく
 - ✓ 時代の変化に合わせて積極的に社会を支え、論理的思考力を持って社会を改善していく資質を有する人材
- 学修者本位の教育への転換
 - ✓ 「何を学び、身に付けることができるのか」個人ごとの学修成果の可視化(個々の教員の教育手法や研究を中心にシステムを構築する教育からの脱却)
 - ✓ 学修者が生涯学び続けるための多様な柔軟な仕組みと流動性

※教育未来創造会議「我が国の未来をけん引する大学等と社会の在り方について」(第一次報告) 令和4年5月10日
 ※第6期科学技術・イノベーション基本計画 令和3年3月26日閣議決定
 ※2040年に向けた高等教育のグランドデザイン(書中) 平成30年11月26日中央教育審議会

学部学科改組ビジョン

「世帯・分野・文化を超えた共創教育」を深化させた教育研究プログラムの実践

- ✓ 社会の課題解決をテーマに、文理を融合する教育研究の実践
- ✓ 数理・データサイエンス・AI等の情報技術を基盤とするプロジェクト型教育研究の実践
- ✓ 我が国の発展に資する人材育成を図るため、既存組織をスクラップ&ビルドし、新たな学部学科体制を構築

支援2:社会実装型教育研究の実践を通じた高度情報専門人材の育成

2040年を見据えた大学院教育のあるべき姿

「知のプロフェッショナル」の育成を大学院が中心に担う。

- ① 論理的や批判的思考力、コミュニケーション能力等の普遍的なスキル、リテラシーのいずれも高い水準で身に付けていること
- ② 自ら課題を発見し仮説を構築・検証する力、社会を先導する力、様々な場面で通用するトランスアラブルな力
- ③ 各セクターを先導できる複数の領域にわたる高度な専門的知識とあわせて、STEAM、データサイエンス、幅広い教養が必要。

※教育未来創造会議「我が国の未来をけん引する大学等と社会の在り方について」(第一次報告) 令和4年5月10日
 ※第6期科学技術・イノベーション基本計画 令和3年3月26日閣議決定
 ※2040年を見据えた大学院教育のあるべき姿 平成31年11月22日中央教育審議会

大学院高度化ビジョン

- ✓ 「大学院×附属研究所・研究センター×企業」の産学連携による社会実装型教育研究を実践し、多様な人々とのコミュニケーションを通して、真の課題とその解決方法を研究する。
- ✓ イノベーション創出ができる高度情報専門知識者・研究者の育成のため、DX・GX・SXの知識、技術について専門分野との関連を理解し、その基盤となる情報技術の適用を通して研究の高度化を図る。

博士前期課程・修士課程

研究所 × 大学院 (産学連携・社会実装) (高度情報専門人材)

による社会実装型教育研究の実践と評価

身につける能力

- ✓ 地域及びグローバル視点からの課題発見解決能力
- ✓ 創造性を備えた専門能力とイノベーション創出能力
- ✓ 世帯・分野・文化を超えたコミュニケーション力とデザイン力
- ✓ 高い倫理観を有し実践と研究を通して実践できる能力

研究と連携した社会実装型教育研究

研究成果を社会へ発表

- ✓ 主催・副査による公開審査の公開審査
- ✓ 国内外の専門協会における口頭発表等

